

平成30年度実績に係る部局評価書

部局名: 日本語日本文化教育センター

【評価区分1】 部局評価計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1: 部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		10月より導入した日本語・日本文化研修留学生への新たなプログラムに対して各種調査の結果から満足度が高いこと、私費学部留学生予備教育プログラムにおいて日本語のクラスを2クラスに増やし、教育効果のアンケートでも肯定的評価が100%であったことが評価できる。
【研究】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【社会貢献】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		教育実習指導事業において10大学から延べ99名の教育実習生を受け入れたこと、TV会議システム等を利用した遠隔教育に積極的に取り組み、授業配信を5大学と計8回実施し、相手側学生から100%に近い満足度を得たことが評価できる。
【グローバル化】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
		320名の留学生に加え、聴講学生34名、学内諸部局所属の学生59名が国際交流科目を履修するなど、本学のグローバル化に貢献していることが認められる。
【業務運営】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。

【評価区分2: 「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

<p>【評価コメント】 常勤教員に占める女性教員の割合について、外国人教員雇用支援事業を活用するなど、組織として積極的な採用に努め、実績を大きく伸ばしていること、かつ高い水準を維持し、大学実績に大きく寄与していることが高く評価できる。 常勤教員一人当たりの共同研究・受託研究の受入については、実績がないためC評定としているが、部局の特性上、実績を上げることが困難であることは理解している。今後、本部と対話をしながら、貴部局の特性や強みを発揮し活躍できる部分において、より高い目標を設定し、その実現に取り組んでいただきたい。</p>
--